

漢字小委員会における論点の整理

(1) 総合的な漢字政策の在り方にかかわること

1) 総合的な漢字政策の具体的な進め方

- ◎ J I S漢字や人名用漢字を含め、国としての一貫した漢字政策が必要である。そのためには、国語分科会のようなところで、全体を統括する必要がある。
 - 具体的にそれをどのような形で実現するか。少なくとも、J I S漢字や人名用漢字の検討に何らかの形で関与できるようなシステムが必要ではないか。
 - 常用漢字に限らず「言葉に関する施策」というのは定期的な見直しが必要であり、その前提として、調査計画を立てて定期的に調査を実施していく必要がある。
- 2) J I S漢字・人名用漢字と国語施策との関係
- J I S漢字や人名用漢字と、常用漢字とは性格が異なるので、そこを踏まえて議論していくべきである。
 - 常用漢字は、国民のだれもがいつでも使えるようにしておきたい漢字である。したがって、J I S漢字や人名用漢字が増える方向にあっても、それに合わせる必要はない。⇨これまでの漢字政策の在り方が現在の方向とズレてきているのではないか。そこを考えて、常用漢字をもう少し増やしていくべきである。

(2) 固有名詞についての扱い方にかかわること ((1)と(3)に関連)

- 固有名詞についての考え方を整理し、基準を示すべきではないか。
 - 上記(1)との関係で整理するのか、下記の(3)との関係で整理するのか。
 - 日本語表記の一環として、固有名詞であっても漢字政策に含めて考えるべきである。その場合、固有名詞における字体の扱いについても基準が示せると良い。

(3) 常用漢字表の見直しにかかわること

1) 見直しの必要性について

- ◎ どの程度まで見直すかは今後の課題であるが、見直すこと自体は必要である。

2) 見直しの観点について

- 戦前からの、特に戦後の「国語施策の考え方」をどう評価するか。
 - 基本的にこれを継承するか、見直していくか。
 - ◎ 字種については増やすという方向だけでなく、入替えを考える。
 - その場合の基本方針をどう考えるか。
 - 常用漢字の音訓についても見直すかどうか。
 - 常用漢字の「読み」と「書き」との関係性をどう考えるか。
 - こういうパソコン時代なので、読めれば良いという考え方が必要でないか。
 - 学校教育との関係をどう考えるか。
 - 小・中学校における子供たちの状況を十分に踏まえる必要がある。
 - 一般の言語生活というレベルで、常用漢字表の位置付けを考える必要がある。
- 3) 必要な漢字調査について
- ◎ 今回の検討においても、調査結果に基づいて考えていくべきである。
 - どの程度意味が分かって読めているのか、実際に漢字をどのように読んで、どのように使っているのか、を調査する必要がある。
 - どのくらい漢字が書けるかの調査が必要である。⇨常用漢字でさえ書けない人が多いので、どのくらい書けるかという調査は無理であろう。
 - 常用漢字表の位置付けを見直していくためには、例えば、何(どんな文章)を書くときに常用漢字表を意識するのか、といった調査も必要ではないか。また、「文字の読み」の単位を超えて、「語」の単位の調査も必要である。

(4) 手書きの重要性にかかわること、その他

- 手書きの重要性をどのように考えていくか。
 - 電子辞書の影響などもあり、字形の定着していない学生や生徒が多い。そのため、よく似た字の選別ができない。この辺は、学校教育の重要な課題である。
- 仮名書きの効用や、ルビの活用といった漢字生活への提言をどう考えるか。